



TITLE:

# 可換環上のあるGalois Objectについて (ガロア理論について)

AUTHOR(S):

中島, 惇

---

CITATION:

中島, 惇. 可換環上のあるGalois Objectについて (ガロア理論について).  
数理解析研究所講究録 1975, 235: 75-87

ISSUE DATE:

1975-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/105489>

RIGHT:

# 可換環上のある Galois object について

岡山大 理 中島 信

## § 1. 序.

ここでは, [1] において定義された可換環上の Galois object をある条件のもとで構成し, さらに Galois object の Frobenius 性について考へる (定理 2, 5).

以下  $R$  は単位元をもつ可換環,  $\otimes = \otimes_R$ ,  $H$  は Hopf  $R$ -algebra とし, その comultiplication  $\in \Delta$ , counit  $\in \varepsilon$  で表わすことにする. また Hopf algebra 等に関する記号は Sweedler [6] に従うものとする.

はじめにここで使われる定義について述べよう.

定義 1.  $S$  を  $R$ -algebra とする.  $S$  が left  $H$ -module algebra であるとは,  $S$  が left  $H$ -module であり, 次の条件を満足するときをいう.

$$(i) \quad h(xy) = \sum_{(h)} (h_{(1)}x)(h_{(2)}y), \quad (h \in H; x, y \in S).$$

$$(ii) \quad h \cdot 1 = \varepsilon(h) \cdot 1.$$

定義 2.  $S$  を  $R$ -algebra とする.  $S$  が right  $H$ -comodule algebra とは,  $R$ -algebra homomorphism  $\alpha: S \longrightarrow S \otimes H$  で次の条件をみたすものが存在するときをいう.

$$(i) \quad (\alpha \otimes 1)\alpha = (1 \otimes \Delta)\alpha.$$

$$(ii) \quad (1 \otimes \varepsilon)\alpha = 1.$$

$S$  が Galois  $H$ -object であるとは,  $S$  が right  $H$ -comodule algebra であり, さらに

(iii)  $S$  は faithfully flat  $R$ -module.

(iv)  $S \otimes S \ni x \otimes y \xrightarrow{\gamma} (x \otimes 1)\alpha(y) \in S \otimes H$  が  $R$ -algebra isomorphism であるときをいう.

$H$  を f. g. projective  $R$ -module かつ antipode  $\lambda \in H$  をとしよう (このような Hopf  $R$ -algebra を finite Hopf  $R$ -algebra と呼ぶことにする). このとき  $R$ -module  $S$  に対して次の自然な同型がある.

$$\text{Hom}_R(S, S \otimes H^*) \cong \text{Hom}_R(S, \text{Hom}_R(H, S)) \cong \text{Hom}_R(H \otimes S, S)$$

ただし  $H^* = \text{Hom}_R(H, R)$  とする. この同型により次のことは容易にわかる.

$S$ : right  $H^*$ -comodule algebra,  $\alpha(x) = \sum_{(x)} x_{(1)} \otimes x_{(2)} \in S \otimes H^*$

$\Rightarrow S$  : left  $H$ -module algebra,  $h \cdot x = \sum_{(x)} x_{(0)} \otimes h x_{(1)}$ ,  
 $(x \in S, h \in H)$ .

$S$  : left  $H$ -module algebra

$\Rightarrow S$  : right  $H^*$ -comodule algebra,  $\alpha(x) = \sum_{i=1}^n h_i x \otimes h_i^*$ ,  
 ここで  $\{h_i, h_i^*\}_{i=1}^n$  は  $H$  の  $R$ -projective coordinate system  
 とする.

以下において, right  $H^*$ -comodule algebra を left  $H$ -module algebra とみる場合, 又は逆に left  $H$ -module algebra を right  $H^*$ -comodule algebra とみる場合は上記の見方で考えるものとする.

定義3. Galois  $H^*$ -object  $S$  が left  $H$ -module として  $H$  と同型であるとき,  $S$  を Galois  $H$ -algebra とする.

## §2. Galois $H$ -object の構成.

$H \otimes H$  は comultiplication  $\Delta$  によって left  $H$ -module であるから, left  $H$ -module algebra  $S$  に対して  $F(S) = \text{Hom}_H(H \otimes H, S)$  とおき,  $[(h_1 \otimes h_2)f](x \otimes y) = f(x h_1 \otimes y h_2)$  ( $x, y, h_i \in H, f \in F(S)$ ) とおけば,  $F(S)$  は left  $H \otimes H$ -module となる. さらに

$$\varphi: S \otimes S \longrightarrow F(S)$$

を  $\varphi(x \otimes y)(h_1 \otimes h_2) = (h_1, x)(h_2, y)$  ( $x, y \in S, h_i \in H$ ) とすれば,  $\varphi$  は  $H \otimes H$ -module homomorphism である.

補題 1.  $H$  は finite Hopf  $R$ -algebra,  $S$  は faithfully flat  $R$ -module とする. このとき次は同値である.

- (i)  $S$  は Galois  $H^*$ -object である.
- (ii)  $S$  は上で定義した  $\varphi$  が同型を与えるような  $H$ -module algebra である.

証明.  $S$  は  $H$ -module algebra とし次の図式を考える.

$$\begin{array}{ccc} S \otimes S & \xrightarrow{\varphi} & F(S) \\ \gamma \downarrow & & \downarrow \psi \\ S \otimes H^* & \xrightarrow{\delta} & \text{Hom}_R(H, S) \end{array}$$

ここで  $\gamma(x \otimes y) = \sum_{i=1}^n x(h_i y) \otimes h_i^*$ ,  $\psi(f)(h) = f(1 \otimes h)$ ,  $\delta(x \otimes h^*)(h) = h^*(h) \wedge x$  ( $x, y, \wedge \in S, f \in F(S), h \in H, h^* \in H^*$ ,  $\{h_i, h_i^*\}_{i=1}^n$  は  $H$  の  $R$ -projective coordinate system). このときこの図式は可換であり,  $\delta$  は isomorphism である. さらに  $\psi': \text{Hom}_R(H, S) \longrightarrow F(S)$  を  $\psi'(g)(h \otimes h') = \sum (\omega) h_{(0)} g(\lambda(h_{(0)}) h')$  ( $g \in \text{Hom}_R(H, S), h, h' \in H$ ) とすれば  $\psi'$  は  $\psi$  の逆写像である. 従って  $\varphi$  が isomorphism であること

$\gamma$  が isomorphism であることは同値。よって前に注意した right  $H^*$ -comodule と left  $H$ -module の見方から、補題は成立する。

さて Hopf  $R$ -algebra  $H$  に対して次のような条件を考える。

(F)  $H$  は finite, commutative, cocommutative Hopf algebra であり,  ${}_H H \cong {}_H H^*$  が成立する。ここで  $H^*$  の  $H$ -module structure は  $(hf)(x) = f(\lambda(h)x)$  ( $h, x \in H$ ,  $f \in H^*$ ) で考える。

$S$  を Galois  $H$ -algebra とすれば,  ${}_H S \cong {}_H H \cong {}_H H^*$  より  $H$ -module isomorphism  $\eta: S^* = \text{Hom}_R(S, R) \longrightarrow H$  が存在する。従って次の  $H$ -module homomorphism を得る:

$$D: H \xrightarrow{\eta^{-1}} S^* \xrightarrow{\mu^*} (S \otimes S)^* \cong S^* \otimes S^* \xrightarrow{\eta \otimes \eta} H \otimes H$$

( $\mu$  は  $S$  の multiplication である)。  $\mu$  の associativity から,  $D$  は coassociative, すなわち,  $(D \otimes 1)D = (1 \otimes D)D$  である。そこで  $H(D) = H^*$  ( $R$ -module として) とおくと,  $H(D)$  は次の演算によって algebra となる。

$$(f \cdot g)(x) = (f \otimes g) \Delta(x) D(1) \quad (f, g \in H(D), x \in H).$$

さらに次が成立する.

定理2.  $H$  は条件 (F) を満足するものとする.  $S$  が Galois  $H$ -algebra ならば, Galois  $H^*$ -object として  $S \cong H(D)$  である.

証明.  $D$  の定義から, 次の図式は可換である.

$$\begin{array}{ccc} S^* & \xrightarrow{\mu^*} & (S \otimes S)^* \cong S^* \otimes S^* \\ \eta \downarrow & & \downarrow \eta \otimes \eta \\ H & \xrightarrow{D} & H \otimes H \end{array}$$

従って  $\eta^* D^* = \mu(\eta^* \otimes \eta^*)$ .  $H(D)$  の乗法は  $D$  によってきまり,  $\eta$  は  $H$ -module isomorphism であるから,  $\eta^*: H(D)$   $S$  は  $H$ -module isomorphism から  $R$ -algebra isomorphism である. よって定理は証明された.

定理2では  $H \in$  finite, commutative, cocommutative Hopf  $R$ -algebra とし,  ${}_H H \cong {}_H H^*$  のもとで, Galois  $H$ -algebra を構成した. そこで  ${}_H H \cong {}_H H^*$  なる Hopf algebra について考えてみる. Larson-Sweedler [3] によって (一般的には Endo [2], Pareigis [5]) 次のことが知られて

いす。

$H$  は finite Hopf  $R$ -algebra とすると, left  $H$ -module として  $H^* \cong H \otimes P$ ,  $P$  は projective rank 1 の  $R$ -module.

従って  $\text{Pic}(R) = 0$  ならば, left  $H$ -module として  $H^* \cong H$  である. 同様にして  $H^* H^* \cong H^* H$  (ここで  $H \cong H^{**}$  とみて  $H^*$ -module structure を入れる).  $\text{Pic}(R) \neq 0$  であっても次のような具体的な例がある.

(1)  $G$  を有限アベル群,  $RG$  をその group ring とする. このとき  $RG$  は自然な構造で, finite, commutative, cocommutative Hopf  $R$ -algebra となる. さらに  $RG$ -module として  $(RG)^* \cong RG$  である.

(2)  $R \in GF(p)$  ( $p \neq 0$ , 素数) 上の algebra とし  $H = R d_0 \oplus R d_1 \oplus \cdots \oplus R d_{p-1}$ ,  $\{d_0 = 1, d_1, \dots, d_{p-1}\}$  は  $R$ -free basis, とおく.  $H$  は次の演算によって finite, commutative, cocommutative Hopf  $R$ -algebra である.

$$d_i d_j = \binom{i+j}{i} d_{i+j},$$

$$\Delta(d_n) = \sum_{i=0}^n d_i \otimes d_{n-i},$$

$$\varepsilon(d_i) = \delta_{i,0},$$

$$\lambda(d_i) = (-1)^i d_i.$$

$d_i^* \in d_i$  の dual basis とするとき,  $H^* = R d_0^* \oplus R d_1^* \oplus \cdots \oplus R d_{p-1}^*$  は finite, commutative, cocommutative Hopf  $R$ -algebra



である.  $f = \sum_{i=1}^{p-1} d_i^*$  とおくと,  $f$  は  $H^*$  の  $H$ -module としての free basis になる. 実際  $h_i = \sum_{j=1}^{p-1} r_{ij} d_j$  ( $r_{ij} \in R$ ) とおき,  $h_i f = d_i^*$  となる  $h_i$  を求めることができればよいが, これは  $r_{ij}$  についての連立方程式とみたとき, その係数の行列式が  $GF(p)$  の non-zero element であることよりわかる. 従って  ${}_H H \cong {}_H H^*$  である.

上で与えられた Hopf  $R$ -algebra について, その Galois object は

(1) の場合.  $S$  が commutative Galois  $(RG)^*$ -object.

$\Leftrightarrow S$  は Galois group  $G$  をもつ  $R$  の Galois extension.

(Chase-Sweedler [1]).

(2) の場合.  $S$  が commutative  $H$ -algebra.

$\Leftrightarrow S \cong R[x]/(x^p - a)$  ( $a \in R$ ).

証明.  $H$ -module として  $\psi: H \rightarrow S$  なる isomorphism があるから,  $\psi(1) = x \in S$  とおくと,  $\{x, d_1(x), \dots, d_{p-1}(x)\}$  は  $S$  の free basis であり,  $d_{p-1}(x)$  は  $R$  の unit element である. これより  $d_1(y) = 1$  となる  $y \in S$  が存在する. このとき  $\{1, y, \dots, y^{p-1}\}$  で生成される  $S$  の  $R$ -subalgebra を  $T$  とおくと,  $\{1, y, \dots, y^{p-1}\}$  は  $R$ -free basis で,  $T$  は Galois  $H^*$ -object である. 従って  $S = T \cong R[x]/(x^p - y^p)$

$(y^p \in R)$ .

### §3. Galois object の Frobenius 性.

§2 において考えた例においては,  $H^* H^* \cong H^* H$  も成立している.  $H$  が antipode をもてば,  $H^*$  も antipode をもつ, 従って  $H^*$  は Galois  $H^*$ -object となる. このことより Galois  $H^*$ -object が  $R$  のどんな拡大であるかを調べるには " $H^*$  が  $R$  のどんな拡大であるか?" ということが一つの目安になるものと思われる. 例えば

$H \in$  finite cocommutative Hopf  $R$ -algebra,  $S \in$  commutative Galois  $H^*$ -object とする. このとき  $H^*$  が separable  $R$ -algebra であれば,  $S$  は separable  $R$ -algebra である. 一般に Galois object が separable  $R$ -algebra であっても, それは必ずしもガロア拡大ではない.

例.  $G$  を位数  $n$  の有限群,  $n$  が  $R$  の unit element であるとする. このとき group ring  $RG$  は separable  $R$ -algebra であるが,  $R$  のガロア拡大にならないことがある.

$H \in$  finite cocommutative Hopf  $R$ -algebra,  $S \in$  commutative  $R$ -algebra とする.  $S$  が left  $H$ -module ならば,  $S$  と  $H$  の smash product  $S \# H$  が定義され,

すなわち,  $R$ -module として  $S \# H = S \otimes H$  ( $S \# H$  の元  $s \in S$  と  $h \in H$  とかくことにする.),  $S \# H$  における積  $\varepsilon$

$$(x \# g)(y \# h) = \sum_{(g)} x(g_{(1)} y) \# g_{(2)} h \quad (x, y \in S; g, h \in H)$$

と定義すれば,  $S \# H$  は  $R$ -algebra である. また  $S$  は

$(s \# h)(x) = s(hx)$  ( $s, x \in S; h \in H$ ) によって left  $S \# H$ -module である.

定理 3 (Chase-Sweedler [1]).  $H \in$  finite cocommutative Hopf  $R$ -algebra,  $S \in$  commutative  $R$ -algebra とする.

このとき次は同値である.

(i)  $S$  は Galois  $H^*$ -object である.

(ii)  $S$  は left  $H$ -module algebra であり

$$S \# H \ni s \# h \xrightarrow{\gamma} (x \mapsto s(hx)) \in \text{Hom}_R(S, S)$$

が  $R$ -algebra isomorphism である.

定理 4.  $S$  は commutative  $R$ -algebra であり,  $R$ -module として f. g. projective faithful であるとする. このとき次は同値である.

(i)  $S$  は  $R$  の Frobenius 拡大である.

(ii)  $S^* = \text{Hom}_R(S, R)$  は free  $S$ -module である.

(iii)  $\text{Hom}_R(S, S)$  は free  $S \otimes S$ -module である.  $\square$

で  $\text{Hom}_R(S, S)$  の  $S \otimes S$ -module structure は次のものとする。  
 $[(s \otimes t) \varphi](x) = s(\varphi(xt)) \quad (s, t, x \in S, \varphi \in \text{Hom}_R(S, S))$ .

証明. (i)  $\iff$  (ii) は Frobenius 拡大の定義から自明.

(ii)  $\iff$  (iii) を示す.  $(s \otimes t)(x \otimes f) = sx \otimes tf \quad (s, t, x \in S, f \in S^*, (tf)(x) = f(xt))$  によって  $S \otimes S^*$  は  $S \otimes S$ -module であり,  $S \otimes S$ -module として  $\text{Hom}_R(S, S) \cong S \otimes S^*$  である. これより (ii)  $\iff$  (iii) を得る.

さて,  $H \in$  finite cocommutative Hopf  $R$ -algebra,  $S \in$  commutative  $R$ -algebra とする.  $H^*$  は commutative  $R$ -algebra であるから,  $H^*$  は ( $H^*$  の乗法によって)  $H^*$ -module である. 従って  $H^{**} \cong H$  は  $H^*$ -module である. その構造は次で与えられている.

$$(f \cdot h)(g) = h(f \cdot g) = (f \otimes g) \Delta(h) \quad (h \in H; f, g \in H^*).$$

よって  $S \otimes H$  は  $S \otimes H^*$ -module である.  $S \in$  left  $H$ -module algebra とすると, 前に注意したことから,  $S$  は right  $H^*$ -comodule algebra であり, 従って次の algebra homomorphism がある.

$$\gamma: S \otimes S \rightarrow S \otimes H^* \longmapsto \sum_{i=1}^n s(h_i t) \otimes h_i^* \in S \otimes H^* \quad (s, t \in S)$$

ただし  $\{h_i, h_i^*\}_{i=1}^n$  は  $H$  の  $R$ -projective coordinate system.

この  $\gamma$  によって  $S \otimes H$  は  $S \otimes S$ -module となる. さらに  $H$

の  $H^*$ -module structure から,  $h^*h = \sum_{(h)} h^*(h_{(1)})h_{(2)}$  ( $h^* \in H^*$ ,  $h \in H$ ) となること及び,  $S$  が commutative  $R$ -algebra かつ  $H$ -module algebra であることに注意すれば

$$\gamma: S \otimes H \longrightarrow \text{Hom}_R(S, S)$$

は  $S \otimes S$ -module homomorphism である. これらのことより次の定理を得る.

定理 5.  $S$  は commutative  $R$ -algebra,  $H$  は finite, cocommutative Hopf  $R$ -algebra で,  $H^*H \cong H^*H^*$  であるとする. このとき  $S$  が Galois  $H^*$ -object ならば,  $S$  は  $R$  の Frobenius 拡大である.

証明.  $S$  は Galois  $H^*$ -object とすれば, 定理 3 から  $\gamma: S \otimes H \longrightarrow \text{Hom}_R(S, S)$  は isomorphism である. 仮定  $H^*H \cong H^*H^*$  より  $S \otimes H^*$ -module として  $S \otimes H \cong S \otimes H^*$ . さらに  $R$ -algebra として  $S \otimes S \cong S \otimes H^*$  であり,  $S \otimes H$  の  $S \otimes S$ -module structure はこの同型によって定められているから,  $S \otimes H \cong \text{Hom}_R(S, S)$  は free  $S \otimes S$ -module である. よって定理 3 から  $S$  は  $R$  の Frobenius 拡大である.

この証明は Yokogawa [7] における方法と同様である.

## References

- [1] S. U. Chase and M. E. Sweedler; Hopf algebras and Galois theory, Springer Lecture Notes 97, 1969.
- [2] S. Endo; Hopf algebra の構造について, 数理解析研究所講究録 94, "Derivations & Algebra の Cohomology 研究会報告集(1970), 76-92.
- [3] R. G. Larson and M. E. Sweedler; An associative orthogonal bilinear form for Hopf algebras, Amer. J. Math. 91 (1969), 75-94.
- [4] A. Nakajima; On generalized Harrison cohomology and Galois object, Okayama Math. J. to appear.
- [5] B. Pareigis; When Hopf algebras are Frobenius algebras, J. Alg. 18(1971), 588-596.
- [6] M. E. Sweedler; Hopf algebras, Benjamin, New York, 1969.
- [7] K. Yokogawa; On  $S_R$ -module structures of  $S/R$ -Azumaya algebras, to appear.